

(品目別需給編)

1 小麦

(1)国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2021/22 年度

生産量 前年度比  前月比 **－**

- ・豪州、カナダ等で減少も、EU、英国等で増加し、前年度を上回り、史上最高の見込み。

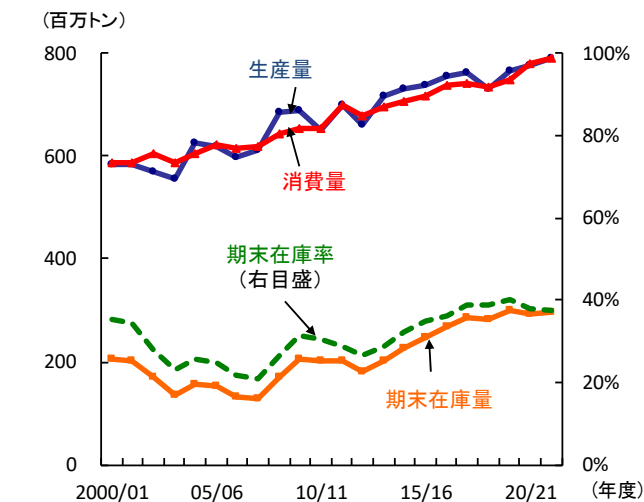
消費量 前年度比  前月比 **－**

- ・中国、カナダ等で減少も、英国、EU 等で増加し、前年度を上回り、史上最高の見込み。

輸出量 前年度比  前月比 **－**

- ・カナダ、豪州で減少も、EU、ウクライナで増加し、前年度を上回り、史上最高の見込み

期末在庫量 前年度比  前月比 **－**



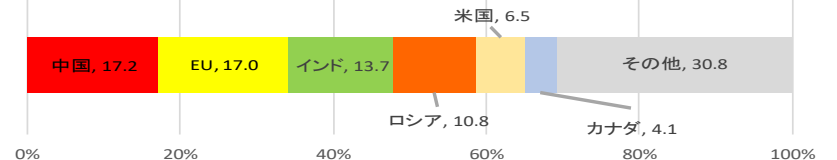
◎世界の小麦需給

（単位：百万トン）

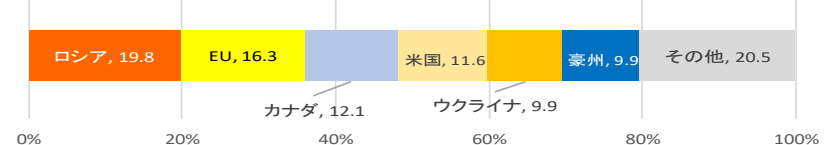
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	764.2	776.1	789.0	－	1.7
消 費 量	748.8	780.9	788.7	－	1.0
うち飼料用	139.8	157.3	158.7	－	0.9
輸 出 量	194.9	199.7	202.4	－	1.4
輸 入 量	187.9	157.3	199.0	－	26.5
期末在庫量	299.4	294.7	295.0	－	0.1
期末在庫率	40.0%	37.7%	37.4%	－	▲ 0.3

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (12 May 2021)

○ 2021/22年度の世界の小麦の生産量 (789.0百万トン) (単位：%)



○ 2021/22年度の世界の小麦の輸出量 (202.4 百万トン)



○ 2021/22年度の世界の小麦の輸入量 (199.0百万トン)



(2) 国別の小麦の需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】米国農務省(USDA)によれば、2021/22年度の生産量は、前年度に比べ2.5%増の51.0百万トンの見込み。

同「Wheat Outlook」「Crop Production」(2021.5)によれば、同年度の冬小麦の単収は主要生産州のカンザス州、ネブラスカ州等で回復し、全体で3.51トン/ヘクタールと前年度(3.42トン/ヘクタール)を上回り、収穫面積も9.96百万ヘクタールと前年度を上回る見込み。このため、生産量は34.9百万トンと前年度(31.9百万トン)を10%上回り、小麦全体に占める生産量割合は約69%と2014/15年度以降最大となる見込み。

冬小麦の生育状況は、4月中旬に寒波に見舞われ、大平原や中西部等広範囲に渡って凍害が発生し、出穂期の冬小麦に影響を与えた。また、春小麦は、大平原北部で乾燥し温暖な天候に恵まれ播種が進んだが、モンタナ州の東部や主要生産州のノースダコタ州の北部では乾燥天候となり、同州の大部分で乾燥が進み干ばつ状況となっている。

同「Crop Progress」(2021.5.17)によれば、5月16日時点の冬小麦の出穂進捗率(主要生産18州)は53%と、前年度同期の54%、5年平均の58%を下回っている。作柄評価は、良～やや良が前週より1ポイント低い48%で、前年同期の52%を下回っている。一方、春小麦は、播種進捗率(主要6州)が85%で前年度同時期の57%、5年平均の71%を上回っており、発芽進捗率も47%となり前年度同時期の28%、5年平均の36%を上回っている。

【貿易情報・その他】USDA「Wheat Outlook」(2021.5.14)によれば、期末在庫量は前年度を11.3%下回る21.1百万トンとなり、期末在庫率は前年度の41.8%から36.9%に低下の見込み。この需給バランスやとうもろこし価格の高騰のため、米国産の生産者平均取引価格は6.5ドル/buに届くと見られている。米国産の価格水準が高く価格競争力が低下するため、2021/22年度の輸出量は24.5百万トンで前年度を6.7%下回る見込み。2021年4月の輸出先国は、中国(24.2%)、韓国(13.0%)、メキシコ(12.1%)の順。

小麦－米国（冬小麦が全体の7割、春小麦は3割）

(単位:百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	52.6	49.7	51.0	—	2.5
消費量	30.6	30.6	32.5	—	6.4
うち飼料用	2.8	2.7	4.6	—	70.2
輸 出 量	26.3	26.3	24.5	—	▲ 6.7
輸 入 量	2.9	2.7	3.4	—	25.0
期末在庫量	28.0	23.7	21.1	—	▲ 11.3
期末在庫率	49.2%	41.8%	36.9%	—	▲ 4.8

(参考)
収穫面積(百万ha) 15.13 14.87 15.15
単収(t/ha) 3.47 3.34 3.36
資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 May 2021)

図 米国産小麦の生産量と輸出量の推移(2010/11年度～2021/22年度)
(百万トン)

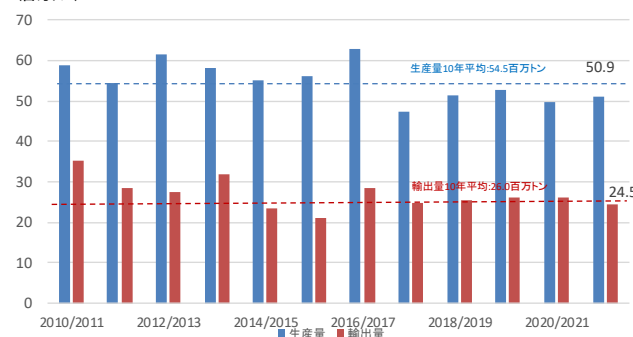


表 米国の小麦輸出先国別輸出量(輸出検証高)

2021年4月			2021年1月～4月		
国名	検証高	シェア(%)	国名	累積検証高	シェア(%)
中国	66.4	24.2	メキシコ	127.7	14.7
韓国	35.8	13.0	中国	126.9	14.6
メキシコ	33.2	12.1	韓国	88.6	10.2
フィリピン	23.9	8.7	フィリピン	86.5	10.0
日本	17.0	6.2	日本	82.7	9.5
その他	98.7	35.9	その他	47.1	5.4
合計	275.0	100.0	合計	868.6	100.0

注1. 4月の輸出検証高は、4月8、15、22、29、5月6日の合計値

注2. 累積輸出検証高は、2021年1月7日～5月6日の合計

資料: USDA Federal Grain Inspection Services Yearly Export Grain Totals (2021年5月11日)より作成。

< カナダ >

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省(AAFC)「Outlook For Principal Field Crops」(2021.5.20)によれば、2021/22年度の生産量は、前年度に比べ11.7%減少の31.1百万トンの見込み。品種別には、デュラム小麦が、同8.5%減少し6.0百万トン、普通小麦が、同12.4%減少し25.1百万トンの見込み。

カナダ統計局「Principal field crop areas, March 2021」(2021.4.27)によれば、2020/21年度の小麦全体の作付面積は、大豆、大麦等への作付のシフトから、前年度に比べ6.9%減少の9.41百万ヘクタールの見込み。品種別には、デュラム小麦が同0.3%増加の2.31百万ヘクタール、普通小麦が同10.0%減少の7.1百万ヘクタール。なお、普通小麦の作付面積の内訳は、春小麦が同8.8%減少の6.6百万ヘクタール、冬小麦が11.2%減少の0.5百万ヘクタール。

2021/22年度の春小麦の播種は前年度を上回り順調に進んでいるが、平原三州の大部分で乾燥天候となっているため、発芽・生長に十分な降雨が必要とされている。同様に冬小麦も乾燥天候による単収への影響が懸念され、適時な降雨が必要と見られている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、主要産地である平原の乾燥天候により5月7日時点のカナダの輸出価格は339ドル/トンと4月8日時点の277ドル/トンから上昇。AAFCによれば、2021/22年度の輸出量は、前年度に比べ17.8%減の22.0百万トンの見込み。内訳は、デュラム小麦が、輸入需要の減少から前年度に比べ14.0%減少の4.9百万トン、普通小麦は、生産量の減少による輸出余力の低下や、国際市場での競争の激化から前年度に比べ18.8%減の17.1百万トンの見込み。

カナダ穀物委員会(Canadian Grain Commission)によれば、2021年3月の輸出量は、普通小麦が173.0万トン、デュラム小麦が63.5万トン。輸出先国は、普通小麦が、中国(16.3%)、ペルー(13.1%)、デュラム小麦はアルジェリア(32.9%)、モロッコ(10.7%)の順。2020/21年度(2020年8月～2021年7月)の8月から3月までの輸出量は普通小麦が1,310.0万トン、デュラム小麦が404.9万トンであった。

小麦－カナダ（春小麦を主に栽培）

(単位:百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、() はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	32.7	35.2	32.0 (31.1)	—	▲ 9.0
消費量	9.3	9.9	9.2 (8.9)	—	▲ 7.1
うち飼料用	4.2	4.7	4.0 (4.5)	—	▲ 14.9
輸 出 量	24.6	27.5	23.5 (22.0)	—	▲ 14.5
輸 入 量	0.7	0.6	0.7 (0.1)	—	27.3
期末在庫量	5.5	3.8	3.8 (5.1)	—	—
期末在庫率	16.2%	10.2%	11.7% (16.4%)	—	1.5

(参考)

収穫面積(百万ha)	9.66	10.02	9.20 (9.22)	—	▲ 8.2
単収(t/ha)	3.38	3.51	3.48 (3.37)	—	▲ 0.9

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 May 2021)
AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(20 May 2020)

表 カナダ産普通小麦及びデュラム小麦の輸出相手国(輸出検証高、シェア)
2021年3月及び2020/21年度(2020年8月～2021年7月)の8月～3月

	2021年3月			2020年8月～2021年3月		
	国名	輸出量 (万トン)	輸出量シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	輸出量シェア (%)
1	中国	28.2	16.3	中国	186.6	14.2
2	ペルー	22.7	13.1	インドネシア	138.2	10.5
3	コロンビア	17.8	10.3	ペルー	122.3	9.3
4	日本	13.7	7.9	日本	115.6	8.8
5	メキシコ	12.4	7.2	コロンビア	101.9	7.8
6	その他	78.2	45.2	その他	645.4	49.3
計		173.0	100.0	計	1310.0	100.0

(デュラム小麦)

	2021年3月			2020年8月～2021年3月		
	国名	輸出量 (万トン)	輸出量シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	輸出量シェア (%)
1	アルジェリア	20.9	32.9	イタリア	114.2	28.2
2	モロッコ	6.8	10.7	モロッコ	80.9	20.0
3	イタリア	5.7	9.0	アルジェリア	57.1	14.1
4	米国	5.5	8.7	チュニジア	31.6	7.8
5	チュニジア	5.4	8.5	トルコ	19.8	4.9
6	その他	19.2	30.2	その他	101.3	25.0
計		63.5	100.0	計	404.9	100.0

注1: Canadian Grain Commissionが認可したエレベーターから輸出された小麦(Licensed)のみのデータ。

注2 普通小麦の品種はNO.1-3 Canada Western Red Spring No.1 Canada Western Red Winter
No.2 Canada Eastern Red Spring No.2 Canada Eastern Oter, デュラムは Canada Western Amber Durum Others
資料: Canadian Grain Commission「Export of Canadian Grain and Wheat Flour」をもとに作成。

< 豪州 >

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、播種面積は増加したものの、単収が低下したことから、前年度に比べ18.2%減少の27.0百万トンの見込み。

同「Grain and Feed annual report」(2021.4.26)によれば、世界的な小麦価格の高騰、良好な土壌水分から、播種面積は前年度(13.0 百万ヘクタール)に比べわずかに増加し13.2 百万ヘクタールとなる見込み。また、中国の豪州産大麦輸入に対する制裁により、一部地域の生産者が大麦から小麦に生産をシフトすると見られている。特に、輸出依存度の高い西オーストラリア州と南オーストラリア州では大麦生産から小麦、菜種へのシフトが見込まれている。一方、東部の大麦は国内飼料用等のためシフトは少ないと見られている。

また、GIWA「Crop Report」(2021.5.7)によれば、西オーストラリア州では平年以上の土壌水分量や小麦価格の高さから、同年度の作付面積は、前年度を上回る4.92 百万ヘクタールの見込み。

また、2021/22年度の播種時の土壌水分量は、前年度同時期とほぼ同じかそれ以上であるが、生長期の初期から中期の降雨量は平均以下との予測から、単収は、豊作であった前年度を19.3%下回る2.05 トン/ヘクタールとなる見込み。

【貿易情報・その他】USDA「Grain World Markets and Trade」(2021.5.12)によれば、豪州産の小麦輸出価格は、北半球の降雨不足の懸念やとうもろこしの国際価格の上昇傾向、好調な輸出から、4月7日時点の266 ドル/トンから298 ドル/トン(5月7日時点)に上昇した。USDAによれば、2021/22年度の飼料用需要は、大麦へとシフトしたため前年度に比べ10.0%減少の4.5 百万トン。また、同年度の輸出量は、生産量予測の減少から前年度に比べ、9.1%減少の20.0 百万トンで、インドネシアやフィリピン、ベトナム等の東南アジア市場向けの輸出が再び拡大する見込み。また、輸入量は前年度からの変更はなく0.2 百万トンの見込み。なお、2019/20年度は干ばつであったため、カナダから小麦を輸入した。

小麦－豪州 (冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	15.2	33.0	27.0 (29.3)	—	▲ 18.2	
消費量	8.5	8.5	8.0 (7.8)	—	▲ 5.9	
うち飼料用	5.0	5.0	4.5 (4.2)	—	▲ 10.0	
輸 出 量	9.1	22.0	20.0 (19.4)	—	▲ 9.1	
輸 入 量	0.9	0.2	0.2 (0.3)	—	—	
期末在庫量	2.9	5.6	4.8 (5.9)	—	▲ 14.3	
期末在庫率	16.4%	18.4%	17.1% (21.6%)	—	▲ 1.2	
(参考)						
収穫面積(百万ha)※	10.20	13.00	13.20 (12.50)	—	1.5	
単収(t/ha)	1.49	2.54	2.05 (2.00)	—	▲ 19.3	

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 May 2021)
IGC 「Grain Market Report」(29 April 2021)

写真 深播きされた小麦(西オーストラリア州)



この小麦は、子葉鞘(発芽して最初に現われる葉)が長い品種で(写真左)、3月19日に125 mmの深さに播種された(写真右)。

子葉鞘が長いことで深く播種することにより、小麦は土壌深くの水分を吸収し、十分な降雨がなくとも即時発芽することができる。このため、小麦の深播きは、気候変動問題の中で単収の最大化を図る生産者から多くの関心を集めている。

< EU >

【生育・生産状況】EU委員会「EU Cereals Production Area and Yield」(2021.4.29)によれば、2021/22年度の生産量(EU27)は、前月予測から僅かに上方修正され、125.7百万トンの見込み。また、英国農業園芸開発公社(AHDB)「First 2021GB wheat production forecast」(2021.4.14)によれば、英国の2021/22年度の生産量は前年度に比べ4.9百万トン増加の14.6百万トンの見込み。品種別の生産量(EU27)は、普通小麦が前月に比べドイツ、ポーランド、フランスで上方修正されたものの、ルーマニア、ブルガリア、スペイン等で下方修正され、125.7百万トンの見込み。一方、デュラム小麦は、イタリア、フランスで下方修正され7.47百万トンとなる見込み。

EU全体の生育状況は、3月末から気温が上昇し生育が進んだものの、4月上旬から気温が低下し、生殖生長期の小麦の一部が霜害を受けた。同月下旬から気温は上昇したものの、英国、フランス、ドイツ等では平年より低い水準で推移。また、4月下旬から5月上旬にかけて降雨があったものの、英国南部、フランス北部及び西部、ルーマニア、ブルガリアでは土壌水分不足が懸念されている。

「FranceAgriMer」(2021.5.10)によれば、主要生産国であるフランスの小麦生育段階は、全体の98%で節間伸長期を迎えているものの、前年度5月時点の100%を下回っており生育は遅れている。また、生育評価の良～やや良の割合は、普通小麦が昨年度同時期の55%を上回る79%、デュラム小麦が同62%を上回る69%であり、対前年度比較では生育状況は良い。

【貿易情報・その他】USDA「Grain:World Markets and Trade」(2021.5.12)によれば、EUの輸出価格は、旺盛な輸出需要と低温が及ぼす生育への影響懸念から2021年4月7時点の255ドル/トンから298ドル/トン(5月7日現在)へ上昇した。また、2021/22年度の輸出量は、豊作が見込まれるため、前年度より10.5%増加し33.6百万トンの見込み。EU委員会によれば、2020年7月～2021年2月までの輸出量は、普通小麦が前年同期を15.9%下回る1,832.4万トン、デュラム小麦が同46.3%下回る40.1万トン。

小麦－EU (冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()はEU	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	154.3	135.6	148.1 (123.0)	—	9.2
消費量	123.3	117.6	122.4 (104.4)	—	4.1
うち飼料用	53.3	48.1	51.7 (41.0)	—	7.5
輸 出 量	41.4	30.4	33.6 (26.2)	—	10.5
輸 入 量	7.3	8.4	8.4 (6.4)	—	0.0
期末在庫量	14.6	10.7	11.2 (10.6)	—	5.2
期末在庫率	8.9%	7.2%	7.2% (8.1%)	—	▲ 0.0

(参考)

収穫面積(百万ha)	26.16	24.47	25.63 (24.18)	—	4.7
単収(t/ha)	5.90	5.54	5.78 (5.63)	—	4.3

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
USDA 「World Agricultural Production」 (12 May 2021) 表内のデータはEU27+英国
IGC 「Grain Market Report」 (25 March 2021) ()内はEU27ヶ国のデータ

表 2021年2月のEU(27ヶ国)の普通小麦の輸出国、輸出先国

輸出国	輸出量	シェア(%)	輸入国	輸入量	シェア(%)
フランス	88.4	35.0	アルジェリア	52.0	20.6
ポーランド	41.1	16.3	ナイジェリア	35.2	14.0
リトアニア	29.5	11.7	モロッコ	26.2	10.4
ラトビア	25.6	10.1	サウジアラビア	26.0	10.3
ルーマニア	24.4	9.7	中国	20.5	8.1
その他	43.3	17.2	その他	92.2	36.6
合 計	252.2	100.0	合 計	252.2	100.0

表 2021年2月のEU(27ヶ国)のデュラム小麦の輸出国、輸出先国

輸出国	輸出量	シェア(%)	輸入国	輸入量	シェア(%)
ギリシャ	6.4	72.1	トルコ	3.6	40.8
フランス	0.8	9.0	チュニジア	2.8	30.8
イタリア	0.7	8.4	モータリニア	0.4	4.8
スペイン	0.7	7.9	コートジボワール	0.4	4.6
デンマーク	0.1	1.1	マリ	0.4	4.0
その他	0.1	1.5	その他	1.3	15.0
合 計	8.9	100.0	合 計	8.9	100.0

輸出品、輸入量は万トン

資料: 欧州委員会「EU Cereals export and import」(2021.4.16)をもとに農林水産省で作成

< 中国 >

【生育・生産状況】中国糧油情報センター(2021.5.2)によれば、2021/22年度の生産量は、対前年度比 1.61%増の 136.4 百万トン。品種別には、冬小麦は対前年度比 1.41%増の 128.8 百万トン、春小麦は同 4.91%増の 7.8 百万トンの見込み。

中国中央气象台(2021.5.2)によれば、4月、中国北部の冬小麦生産地帯の大部分は天候条件、土壌水分量とも良好で、小麦の生長と穂孕み・出穂が順調に進んだ。多くの地域で冬小麦の生長は平年並みか3~10日程度早く、作柄は良好である。一方、青海、甘肅等地域の一部では気温が例年を下回り、雨がちな天候となり、作柄は平年に比べやや劣っている。冬小麦の産地別の生育状況は、主要生産地北部の山西等では節間伸長期から出穂期、甘肅等では穂孕み期、陝西では大部分が開花期を迎えている。また、南部の四川省等では乳熟期を迎え、一部は成熟期に入っている。

春小麦は、青海、黒竜江等地区で、播種・出苗期から三葉期に入っており新疆、甘肅、寧夏地区では分げつ期であり、一部は節間伸長期に入っている。

また、全国の冬小麦の作柄は、一、二類苗の比率が23%、74%となった。前年度同期の25%、74%に比べると、二類苗は前年並となったものの一類苗は2ポイント低下。

【貿易情報・その他】中国農産品供需形勢分析月報(4月)によれば、最低買付価格制度に基づく買入小麦の競売と中央政府・地方政府の備蓄在庫の入れ替えに伴う小麦の放出に加え、穀物販売業者が新穀の出回り前に出荷を進め市場供給は十分となり、また、小麦粉需要の少ない時期に入り製粉企業の小麦の買い付け量が減少、加えて国内のとうもろこし価格が下落し飼料製造企業の需要も減少した。このため、普通小麦の国内価格は 500g 当たり 1.27 元 (2,540 元/トン) と対前年同月比 3.3%上昇も、前月からほぼ横ばいとなっている。

中国糧油情報センターによれば、2021/22年度は、消費量が対前年度で 1.17%減少の 145.5 百万トン、そのうち飼料用は同 5.26%減少の 36.0 百万トン、輸入量が対前年度比で 20.0%減少の 8.0 百万トンの見込み。中国海関統計によれば、2021年1月から3月の小麦輸入量は前年同時期の 191.2%増の 291.2 万トンとなった。輸入先国は、豪州(33.2%)、カナダ(26.5%)、フランス(20.1%)、米国(15.9%)の順となっている。

小麦—中国(冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	133.6	134.3	136.0 (135.0)	—	1.3
消費量	126.0	150.0	148.0 (132.0)	—	▲ 1.3
うち飼料用	19.0	40.0	35.0 (21.0)	—	▲ 12.5
輸 出 量	1.1	1.0	1.0 (1.3)	—	—
輸 入 量	5.4	10.5	10.0 (7.9)	—	▲ 4.8
期末在庫量	151.7	145.4	142.4 (139.8)	—	▲ 2.1
期末在庫率	119.4%	96.3%	95.6% (104.9%)	—	▲ 0.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	23.73	23.38	23.00 (23.80)	—	▲ 1.6
単収(t/ha)	5.63	5.74	5.91 (5.71)	—	3.0

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 May 2021)

IGC 「Grain Market Report」(29 April 2021)

表 中国の小麦輸入量、輸入先国シェアの推移

	2020年1月～2020年3月			2021年1月～2021年3月		
	国名	輸入量 (万トン)	輸入量シェア (%)		輸入量 (万トン)	輸入量シェア (%)
1	豪州	46.4	39.5	豪州	96.6	33.2
2	フランス	34.7	29.5	カナダ	77.2	26.5
3	カナダ	14.5	12.3	フランス	58.6	20.1
4	リトアニア	13.1	11.1	米国	46.3	15.9
5	カザフスタン	7.7	6.6	リトアニア	6.6	2.3
6	ロシア	1.1	1.0	カザフスタン	5.8	2.0
7	米国	0.0	0.0	ロシア	0.2	0.1
	計	117.6	100.0	計	291.2	100.0

出典: 中国海関統計(2021.4.25)をもとに農林水産省で作成

< ロシア >

【生育・生産状況】米国農務省(USDA)によれば、2021/22 度の生産量は、前年度に比べ0.4%減少の85.0 百万トン(史上3 番目の豊作)の見込み。品種別の内訳は、冬小麦は単収が低下するものの、収穫面積が増加することから、前年度に比べ2.1%増加の64.0 百万トン、春小麦は収穫面積、単収ともに減少することから21.0 百万トンの見込み。

冬小麦は、前年秋の降水量不足で定着が悪いが、全体的な作柄は5～6月の天候に左右される。また、春小麦の播種は、ロシア西部の降雨、東部の乾燥により遅れている。

現地情報会社によれば、冬小麦の播種面積は増加しているものの、枯死による播き直しが必要な圃場が、主要生産地である黒土地帯のベルゴドロ州等で数十パーセントに達したと見られる等中央連邦管区だけで予想を上回る70～80 万ヘクタールに及ぶ可能性がある。なお、ロシア農業省は、3 月初旬に越冬期の冬作物の23.5%に生育不良が生じているとしたが、同月下旬、大規模な播き直しは不要との見方を示していた。

また、春小麦は、播種が遅れていたが、4 月下旬から特に中央連邦管区で加速した。これは、大量に枯死した冬小麦の圃場での播き直しが本格化したためと見られている。

ロシア農業省によれば、春小麦は5 月11 日時点で昨年度同時期を0.11 百万ヘクタール上回る3.27 百万ヘクタールで播種が進展し、播種進捗率は25%となった。

ロシア気象センターによれば、2021 年4 月は、ロシア・ヨーロッパ部の北部地域で越冬期が終了し、生長が再開。作柄評価は良～やや良で、一部地域では昨年秋からの降雨不足の影響を受けている。また、南部では降雨により土壌水分が補充され生育状況が改善、生育段階は茎立ち期で作柄は概ね良好、ごく一部で不良となっている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、輸出価格は4 月7 日時点の249 ドル/トンから276 ドル/トン(5 月7 日現在)に上昇も、主要輸出国6 ヶ国の中では一番競争力がある。また、同年度の輸出量は、生産量減少も、期首在庫を加えた供給量の増加から、前年度に比べ1.3%増加の40.0 百万トンと、再び世界第1 位の見込み。なお、ロシア農業省によれば、4 月の穀物輸出量(速報値)は過去最低水準の171.9 万トンで小麦は81.0 万トン。

小麦ーロシア(主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、() はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	73.6	85.4	85.0	(83.5)	—	▲ 0.4
消費量	40.0	41.5	42.5	(42.9)	—	2.4
うち飼料用	17.0	18.0	19.0	(18.7)	—	5.6
輸 出 量	34.5	39.5	40.0	(38.9)	—	1.3
輸 入 量	0.3	0.5	0.5	(0.3)	—	—
期末在庫量	7.2	12.1	15.1	(11.0)	—	24.8
期末在庫率	9.7%	14.9%	18.3%	(13.4%)	—	3.4
(参考)						
収穫面積(百万ha)	27.31	28.68	29.00	(28.19)	—	1.1
単収(t/ha)	2.70	2.98	2.93	(2.76)	—	▲ 1.7

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 May 2021)

IGC 「Grain Market Report」(29 April 2021)

(万トン) ロシアの小麦輸出量の推移(月別)

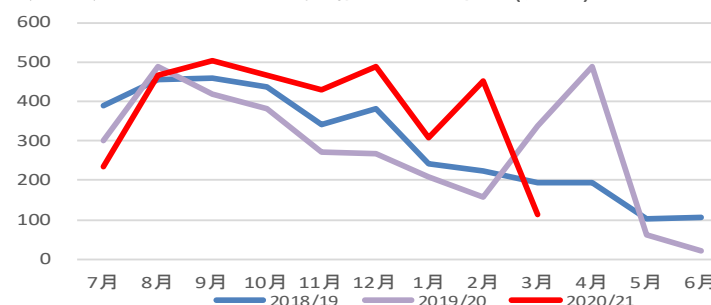


表 ロシアの小麦輸出先国(2021年3月、2020年7月～2021年3月)

	2021年3月			2020年7月～2021年3月		
	国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)	国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)
1	エジプト	28.0	24.4	エジプト	772.5	22.4
2	トルコ	20.8	18.2	トルコ	639.3	18.5
3	不明	13.9	12.1	バングラデシュ	168.1	4.9
4	バングラデシュ	10.8	9.4	パキスタン	157.0	4.5
5	ラトヴィア	8.1	7.1	アゼルバイジャン	138.0	4.0
6	その他	33.1	28.8	その他	1580.6	45.7
計		114.6	100.0		3455.4	100.0

資料: ロシア税関統計をもとに農林水産省で作成
(注)2020/21年度は、2020年7月から2021年6月

2 とうもろこし

(1) 国際的なとうもろこし需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2021/22 年度

生産量 前年度比  前月比 **—**

- ・米国、ブラジル、中国、ウクライナ等で増加し、前年度を上回り、史上最高の見込み。

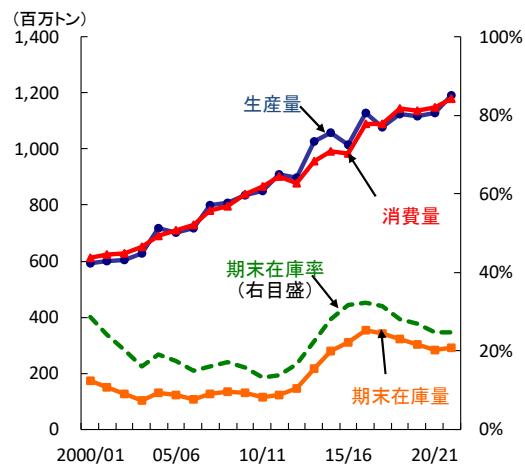
消費量 前年度比  前月比 **—**

- ・米国、中国、EU、ブラジル等で増加し、前年度を上回り、史上最高の見込み。

輸出量 前年度比  前月比 **—**

- ・米国等で減少も、ブラジル、ウクライナ等で増加し、前年度を上回り、史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比  前月比 **—**



資料：USDA「PS&D」（2021.5.12）をもとに農林水産省にて作成

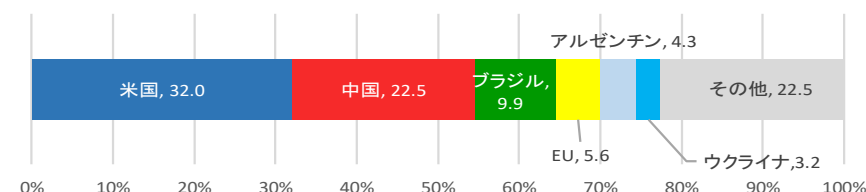
◎世界のとうもろこし需給

(単位：百万トン)

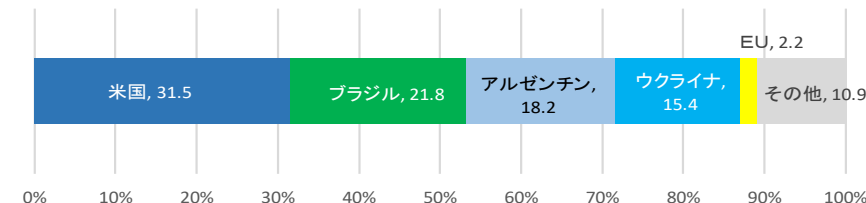
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測からの 変更	対前年度 増減率(%)
生産量	1,117.2	1,128.5	1,189.9	—	5.4
消費量	1,134.8	1,149.4	1,181.1	—	2.8
うち飼料用	716.0	730.3	748.3	—	2.5
輸出量	172.5	186.8	197.5	—	5.7
輸入量	167.6	183.9	189.5	—	3.1
期末在庫量	304.5	283.5	292.3	—	3.1
期末在庫率	26.8%	24.7%	24.7%	—	0.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(12 May 2021)

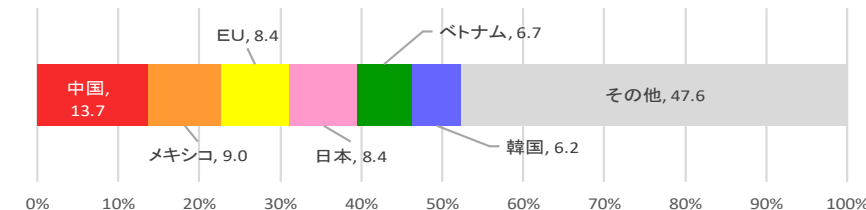
○ 2021/22 年度 世界のとうもろこしの生産量(1,189.9百万トン) (単位：%)



○ 2021/22 年度 世界のとうもろこしの輸出量(197.5百万トン)



○ 2021/22 年度 世界のとうもろこしの輸入量(189.5百万トン)



(2) 国別のとうもろこしの需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】米国農務省（USDA）によれば、2021/22年度の生産量は、収穫面積及び長期的な傾向単収の増加により前年度より 5.7%増の 380.8 百万トンとなり、史上最高の見込み。「Crop Progress」（2021.5.17）によれば、4月中旬の寒波の影響を受けた作付けは、4月中旬以降の気温の上昇により進展し、主要 18 州における作付け進捗率は 80%と、前年度同期（78%）及び過去 5 年平均（68%）より進んでいる。発芽率も 41%と前年度同期（40%）及び過去 5 年平均（35%）より進んでいる。

【需要動向】USDA によれば、2021/22年度の消費量は、国内のワクチン接種の進展に伴い、自動車を運転する機会が増加することで、燃料用エタノールの需要増からエタノール向け需要の増加により、前年度より 1.8%増の 312.8 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2021/22年度の輸出量は、主にアルゼンチン、ウクライナ、ロシアとの激しい輸出競争により前年度より 11.7%減の 62.2 百万トンの見込み。

なお、輸出検証高（2021 年 1 月 7 日～5 月 6 日）は、30.1 百万トンであり、内訳は中国（6.6 百万トン）、日本（5.7 百万トン）、メキシコ（5.4 百万トン）、韓国（2.7 百万トン）の順である。

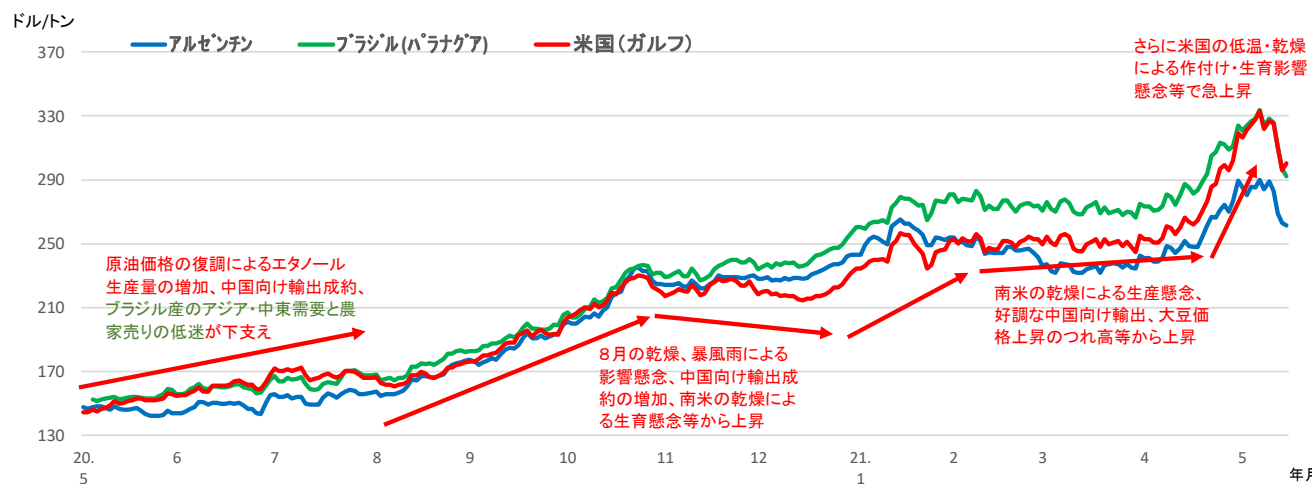
とうもろこしー米国

（単位：百万トン）

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測からの 変更	対前年度 増減率(%)
生産量	346.0	360.3	380.8	—	5.7
消費量	309.5	307.2	312.8	—	1.8
うち飼料用	149.8	144.8	144.8	—	—
エタノール用等	123.4	126.4	132.1	—	4.5
輸 出 量	45.2	70.5	62.2	—	▲ 11.7
輸 入 量	1.1	0.6	0.6	—	—
期末在庫量	48.8	31.9	38.3	—	19.9
期末在庫率	13.7%	8.5%	10.2%	—	1.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	32.92	33.37	33.79	—	1.3
単収(t/ha)	10.51	10.79	11.27	—	4.4

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」（12 May 2021）

図：米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし輸出価格（FOB）の推移



資料：IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

< ブラジル >

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、収穫面積及び単収の増加により、前年度より15.7%増の118.0百万トンとなり、史上最高の見込み。

なお、ブラジル食料供給公社(CONAB)月例報告(2021.5.12)によれば、2020/21年度の収穫終盤の夏とうもろこしの生産量は、乾燥による作付け遅延と生育期の乾燥の影響もあり、南部の州で単収が前年度より減少し、前年度比3.9%減の24.7百万トンの見込み。一方、大豆収穫後に作付けされた冬とうもろこしの生産量は主産地での長引く乾燥天候により生育を左右する5月の天候に不確定要素が多いことから単収が下方修正されたものの、作付面積の拡大により前年度比6.3%増の81.7百万トンが見込まれ、合計では前年度比3.7%増の106.4百万トンの見込み。(P.21 大豆ーブラジルのクロップカレンダー参照)。

2020/21年度について、南部のリオグランデドスル州の早植えの夏とうもろこしは5月20日現在で88%が収穫済み。冬とうもろこしの主産地の一つである南部のパラナ州では冬とうもろこしの作付けが遅れたものの、5月17日現在でシリング率は75%で、さらなる降雨が必要な時期を迎える。ラニーニャ現象に伴う降雨のばらつきについて今後も注視が必要。

【需給状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、飼料用消費の増加に伴い、前年度より3.5%増の73.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、生産量の増加により前年度より22.9%増の43.0百万トンの見込み。輸出シェアは世界第2位を維持。(図参照)。一方、輸入量は1.7百万トンの見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2021年1～4月の輸出量は3.6百万トンで、前年同期と比べ23%増となっている。内訳は、1位がエジプトで77万トン、2位がベトナムで52万トン、3位がイランで51万トンとなっている。

とうもろこしーブラジル

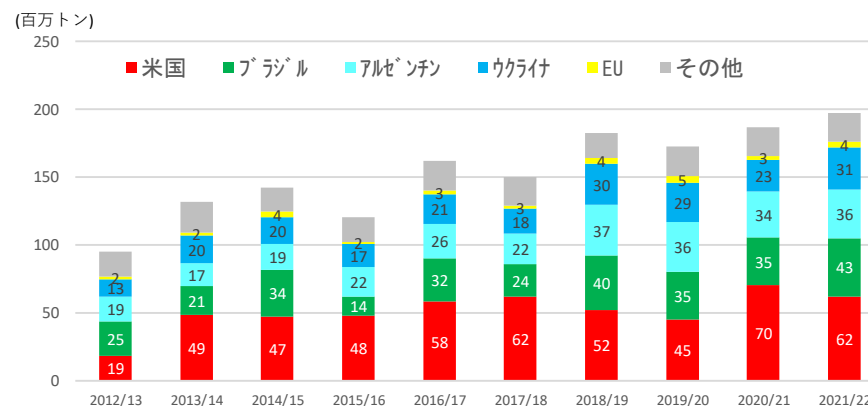
(大豆収穫後に栽培する冬とうもろこしが3/4を占め、夏とうもろこしは1/4)

(単位: 百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	102.0	102.0	118.0 (117.4)	—	15.7
消 費 量	68.5	70.5	73.0 (76.2)	—	3.5
うち飼料用	58.5	60.5	62.0 (55.7)	—	2.5
輸 出 量	35.2	35.0	43.0 (40.0)	—	22.9
輸 入 量	1.7	3.5	1.7 (0.5)	—	▲ 51.4
期末在庫量	5.2	5.2	8.9 (6.9)	—	70.7
期末在庫率	5.0%	5.0%	7.7% (6.0%)	—	2.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	18.50	19.70	20.80 (20.06)	—	5.6
単収(t/ha)	5.51	5.18	5.67 (5.85)	—	9.5

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 May 2021)
IGC 「Grain Market Report」(29 April 2021)

図: 世界のとうもろこし輸出国の輸出量の推移



資料: USDA 「PS&D」 (2021.5.12) のデータをもとに農林水産省にて作成

< アルゼンチン >

【生育・生産状況】USDA によれば、2021/22 年度の生産量は、収穫面積及び単収の増加により、前年度より 8.5%増の 51.0 百万トンの見込み。

ブエノスアイレス穀物取引所（2021.5.20）によれば、2020/21 年度の収穫進捗率は 28% で、大豆の収穫が優先されているため収穫が進展せず、過去 5 年平均に比べ 8 ポイント遅れている。

【需給状況】USDA によれば、2021/22 年度の消費量は、前年度と同じ 14.5 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2021/22 年度の輸出量は、生産量の増加等により前年度より 5.9%増の 36.0 百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2021 年 1～3 月の輸出量は 5.7 百万トンで、前年同期より 21.0%減。内訳は、1 位がベトナム 1.3 百万トン、2 位がエジプト 0.7 百万トン、3 位がアルジェリア 0.6 百万トン。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2019 年 12 月 14 日、輸出税を約 7%から 12%へ引き上げ、その後継続している。

とうもろこしーアルゼンチン

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率 (%)
生 産 量	51.0	47.0	51.0 (59.3)	—	8.5
消 費 量	13.5	14.5	14.5 (22.2)	—	—
うち飼料用	9.5	10.5	10.5 (17.3)	—	—
輸 出 量	36.3	34.0	36.0 (35.5)	—	5.9
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	—	—
期末在庫量	3.6	2.1	2.6 (6.4)	—	24.1
期末在庫率	7.3%	4.4%	5.2% (11.2%)	—	0.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	6.30	6.10	6.25 (7.85)	—	2.5
単収(t/ha)	8.10	7.70	8.16 (7.56)	—	6.0

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 May 2021)
IGC 「Grain Market Report」(29 April 2021)

写真：北部サンタフェ州のとうもろこし圃場の風景

(4月29日撮影)

5月末に収穫予定



< 中国 >

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、価格高騰と政府の増産政策による収穫面積の増加から前年度より2.8%増の268.0百万トンの見込み。

中央气象台(2021.5.11)によれば、2021/22年度の作付けは、4月以降各地で開始され、5月6日現在、春とうもろこしの播種は68%。北部のほとんどの地域でおおむね天候に恵まれ、播種及び苗の生長に有利だった。

【需給状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、最近のASF発生の影響はあるものの、養豚数の回復とレストランの食品残渣や低品質の飼料でまかなっていた小規模畜産経営から大規模経営に移行したことからとうもろこしを主原料に切り替えたため、飼料用消費量が増加し、前年度より1.7%増の294.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸入量は、前年度と同じ26.0百万トンで史上最高の見込み。

中国の貿易統計によれば、2021年1～3月の輸入量は6.7百万トンで、前年同期の5.4倍。内訳は、米国産3.5百万トン(52%)、ウクライナ産3.2百万トン(47%)で、前年同期はウクライナ産が89%を占めたが、米国産の輸入が増加している。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報4月号」によると、4月の国内流通価格は、とうもろこしの春播種時期を迎え、黒龍江省等の東北地域の農家が露天保管していたとうもろこしはほぼ売り尽くしており、農家の手元にはわずかしが残っていないが、引き続き輸入とうもろこしが大量に入港、穀物販売業者による在庫の段階的な放出及びとうもろこし加工業者の手持ち在庫が十分であること等により、2,840元/トンと引き続き下落した。一方、外国産価格はブラジルの乾燥と米国の低温等で上昇したことから、内外価格差は縮小した。

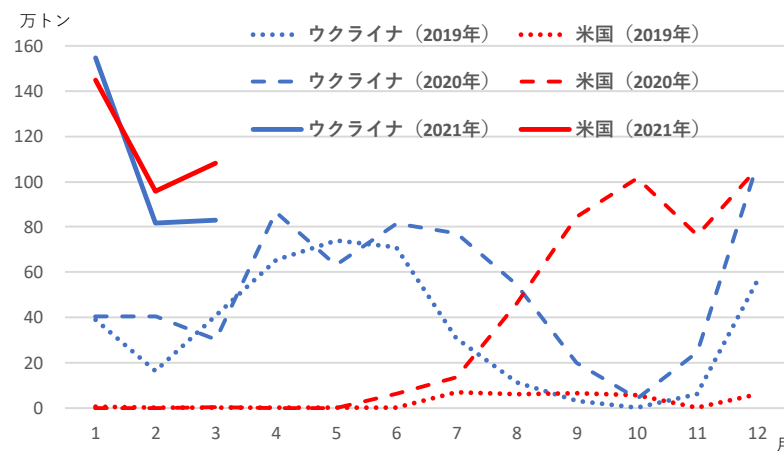
とうもろこしー中国

(単位: 百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	260.8	260.7	268.0 (267.3)	—	2.8	
消 費 量	278.0	289.0	294.0 (298.9)	—	1.7	
うち飼料用	193.0	206.0	211.0 (194.0)	—	2.4	
輸 出 量	0.0	0.0	0.0 (0.1)	—	—	
輸 入 量	7.6	26.0	26.0 (19.0)	—	—	
期末在庫量	200.5	198.2	198.2 (173.9)	—	▲ 0.0	
期末在庫率	72.1%	68.6%	67.4% (58.2%)	—	▲ 1.2	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	41.28	41.26	42.00 (42.00)	—	1.8	
単収(t/ha)	6.32	6.32	6.38 (6.36)	—	0.9	

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 May 2021)
IGC 「Grain Market Report」(29 April 2021)

図：中国におけるウクライナ・米国産とうもろこしの輸入状況



出典：中国海関統計

注：2020年1月分と2月分は合計で公表されたため、便宜上1/2で按分